

声かけと顔つなぎで 安全・安心な地域づくり



子どもたちに食の大切さを伝える
班員

竹野地域には、市内で唯一の愛育班があります。地域の方々と助け合い、支え合い、より良いコミュニティーづくりに取り組んでいます。この活動を基に書いた手記が全国で優秀作に輝くなど、地域貢献活動に取り組んでいる一人の女性を紹介します。

三輪 梨花子 さん(67歳)竹野町桑野本

活動経験を基に 書いた手記が全国一に

竹野地域では、竹野・竹野南愛育班による地域貢献活動が展開されています。

同班は、昭和57〜58年に現在の婦人会が母体となって組織されましたが、近年、地区の婦人会活動の衰退や解散など、社会情勢の変化に伴い、班員も減少しています。

同会に所属する三輪梨花子さんは「何とか愛育班を残したい、高齢化社会が加速する時代だからこそ私たちの活動が必要なんです」と熱く語ります。

三輪さんは、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会が募集する「愛育班員の手記」に自身の活動経験を基にして応募し



愛育班の活動に精力的に取り組む三輪さん。7年前に教員を退職し、「地域に恩返し」と本格的に地域貢献活動を始める。趣味は読書と勉強中の野菜づくり

たところ、全国各地から多くの応募がある中、見事、優秀作に選ばれました。そして、今年4月に東京で開催された第40回愛育班員全国大会で手記を発表し、竹野南愛育班の活動を全国にアピールしました。

手記は、教員という多忙な仕事に追われながらも愛育班活動に取り組み、また、班員に支えられながら田舎ならではの温もりのある地域交流について、活動内容とうまく調和させながら表現されています。

愛育班の活動とは

愛育班は、昭和11年に発足しました。当時、乳児死亡率が著しく高かった関東地方の

農山漁村を「愛育村」「愛育班」とすることから始まり、昭和19年には全国に広がっていきましました。

当時の愛育班は、地域の女性を中心となり自ら新しい保健知識を身につけるとともに近隣の妊産婦や乳幼児を見守り、助け、支えて、母子の健康づくりに貢献してきました。現在では、高齢化や過疎化、核家族化などの進む社会の中で、それぞれの地域に合わせた活動を行っています。

近所とのつながりを 深める声かけ・見守り

ところが、市内で愛育班が組織しているのは、竹野地域だけです。

「こんにちは、お元気ですか」。三輪さんたちはそんな心やさしい声かけを通して、子どもから高齢者まで地域に住むすべての人の健康を見守り、健康づくりやふれあいを基盤とした自主的な活動を続けています。

また、竹野南愛育班は保健師と連携し、介護講座や保育園児から中学生とともに食に関する学習会に取り組むなど、地域の生活に根ざした問題を解決できるようにも努めています。

ます。これが、地域の健康づくり、コミュニティーづくりに貢献しています。

当たり前だけど とても大切なこと

平成17年、市町合併と同時に、愛育班のあり方も時の波にのまれることになりました。それまで独自で歩み続けてきましたが、各団体からの補助が打ち切られることに。現在は、「健康をすすめる会」の組織の一つとして位置づけられ、新たな活動を展開しています。「近隣とのあいさつや声かけは当たり前だけど、とても大切なことです。これまで周りの人に助けられてきた以上に、地域に恩返しするつもりで取り組んでいきたいです」と三輪さん。力強く話す表情には愛情があふれていました。



料理に挑戦。子どもたちは体験を通じて食の大切さを学ぶ

港保育園

(瀬戸)

園児37人



潮風に包まれる港町に位置する港保育園。4月23日、今日は「親子遠足」が行われるようなので、その様子をのぞいてみました。

今日は楽しい遠足だあ！

お母さん・お父さんと一緒にバスに乗り込んだ園児たち。行き先は、植村直己スポーツ公園です。楽しそうに窓の外の景色を見渡す園児たち。目的地に着くとちびっ子交流広場を



目指してお母さん・お父さんと手をつないで元気に歩きまわした。どんな遊びが待っているのかワクワク。

タンポポの花がいっぱい



ちびっ子交流広場に到着すると、園児たちは早速タンポポの花を見つけたようです。心ちやんが両手いっぱいタンポポの花を抱えてとってもうれしそうにしています。



お菓子取りゲームで遊ぼう

まずは、先生と一緒にリズム体操遊びです。みんな元気いっぱい踊れるかな？

次は、みんなが楽しみにしていたお菓子取りゲームです。園児たちはお母さん・お父さんと手をつないでフラフープくぐりやジャンプしてロープ



お弁当の時間になった！

いっばい遊んだあとはお腹がすいてきました。源人くんはお母さんに作ってもらった弁当を、友達と一緒に楽しく食べました。碧奈ちゃんも大好きなお母さんと一緒に弁当を食べた。いっばいになりました。

その後は、アスレチックでみんな楽しんで楽しい時間を過ごしました。



笑顔の輪

メンバー一人ひとりの個性が奏でるハーモニー
「Belle Strings」(豊岡)

豊岡地域で音楽活動をする「Belle Strings」。音楽という枠を通じて出会った気の合う仲間間で平成14年10月に結成しました。現在、メンバー6人が地域の行事や学校の終業式、施設に訪問するなどして演奏を披露しています。

代表の平井玲子さん(元町)は「私たちの演奏を聴いてもらって大人になってからも楽しめる音楽があることを知ってもらいたいですね」と顔をほころばせます。

同会が取り組んでいるのは弦楽四重奏です。高音担当のバイオリンが2人、低音担当のチェロが1人、中間域を担当するビオラが1人の計4人で演奏し、どこか懐かしく温かい音色が聴く人の心を和ませます。

メンバーは、子どものころからピアノを始めたたり、学生時代にオーケストラサークルに入ったりと、音楽経験はさまざまですが、互いの個性を引き立て合っています。



寺院の行事で演奏するメンバー

「この活動を通じてたくさんのお会いがあります。演奏を聴いてくれた方々の「楽しかった」の一言が私たちの何よりの励みになります。でも一番楽しんでるのは私たちがかもしれないですね」と口をそろえるメンバー。皆さん、但馬では珍しい弦楽四重奏を、ぜひ、お聴きください。